平成 29 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： あお空グループホーム 小本

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0393000070		
法人名	有限会社介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム小本		
所在地	岩手県下閉伊郡岩泉町小本字南中野285		
自己評価作成日	平成 30年 3月 9日	評価結果市町村受理日	平成30年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020－0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 30 年 3 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・三陸鉄道の小本駅や三陸沿岸道路の小本インターが徒歩数分の距離に有り、交通の便も良くなった。幹線道路から中に入った住宅街に立地し、近所には小川や田んぼ・畑があり自然に恵まれている。
・開所から7年が経過し地域の方にも認識され初め、災害時の避難協力や散歩の見守り・声かけ等を受けている。
・施設内は、四季の移り変わりや季節を感じる事が出来るような飾り付や空調の設定、行事の実施などしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、高速道のインターチェンジや三陸鉄道の駅などに近接し、交通の利便が良く、医療機関への通院や日用品などの買い物も容易である。また、町役場の支所が近くにあり、行政情報の入手のほか避難場所ともなっている。周辺は住宅の建築が進み、地域住民との交流の機会も増え、生活の利便と安全が確保されている。特に、幼稚園児の訪問や地域の伝統芸能の披露、傾聴ボランティアの受け入れのほか、敷地内に併設されている小規模多機能施設との連携による避難訓練の実施、住民参加の夏祭りの開催など、地域との交流に力を入れている。運営にあたっては、法人の理念に基づき、利用者と職員が隔てなく、ともに暮らす生活者として、利用者に寄り添い、個々の心情を大切に、家族や利用者の意向に沿いながら、利用者本意のサービスの提供を行なっている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

平成　29　年度　　２　自己評価および外部評価結果

事業所名　：　あお空グループホーム　小本

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『グループ企業理念・方針』を目に付きやすい所に掲示し実践につなげている。定期的に唱和を試みたが数回で断念。	法人で定めた理念を施設に掲示しているほか、職員会議等で確認、共有している。職員ごとに目標や問題意識を持ち、利用者の心情や地域住民との交流を大切に利用者と職員がともに支えあい、共同生活者として、介護サービスの向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会に加入している。消防団の活動にも寄付という形で協力させていただいている。 ・地域で開催される新年会に参加し交流を持っている。	自治会からの広報による情報の入手のほか、地域の交流会に参加し、地域住民との繋がりを大切にしている。また、傾聴ボランティアの受け入れ、幼稚園児、小学生との交流、伝統芸能や地域のお祭りの見学など、交流の機会を創出している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所等の相談の際に認知症や介護保険サービスについて相談に乗ることがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で地域で開催される演芸会等を教えていただく。参加の時は席の確保もお願いしている。	運営推進会議の委員からの意見や提案、催事情報を受け、業務に反映させているほか、併設する小規模多機能施設の担当者の出席を得て、各種行事への参加や、夏祭りの共同開催など、内容の充実と地域住民の参加に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町主催のケア会議の参加し情報を得ている。困難事例や各種制度利用開始について相談をし協力関係を築いている。	運営推進会議に町の担当者や地域包括支援センターの職員が参加し、行政情報の提供や感染症予防の助言、指導を得ている。また、町主催の地域ケア会議や研修会に職員を参加させ、利用者へのサービスの向上に繋げているほか、家族の要請を受け各種手続きの代行も行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は身体拘束を必要とする事例はない。行動パターンを把握し身体拘束しないケアに取り組んでいる。	職場内での研修会や外部の研修会に職員を参加させ、身体拘束への知識を習得するとともに、他施設の事故事例などを話題とし、注意を喚起している。事業所内で身体拘束の実例は無く、帰宅願望者には、周辺の散歩や話題の提供による気分転換などで、対処している。	

［評価機関　：　特定非営利活動法人　いわての保健福祉支援研究会］

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	セミナーが有れば積極的に参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立事業を利用されている。利用を勧めながら一緒に学ぶ機会が有った。。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結や変更の有るときはその都度わかりやすい言葉で説明している。また、重要なところには控えに色付けし、理解しやすいように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望は日々の生活の中で捉えている。ご家族は来所の際に日頃の様子を伝え、要望等を運営に反映させるよう心かけている。	家族の訪問時や医療機関の受診の際に、家族の意向等を聴いている。また、広報紙の発行や居室担当のお知らせで、利用者の様子を報告し、意見や要望等を伺っている。日々の生活の中で、利用者の意向を把握するほか、出来る限り食事や外出、お手伝いなどの要望に応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事務所の戸は開放し。相談や意見を聴いたり、簡単な質問が出来る環境になっている。	職員会議や毎朝の申し送りなどで、職員の意見等を聴くほか、話しやすい雰囲気づくりに努め、業務の中で話し合い、職員が共に助け合いながらサービスの向上に繋げている。行事内容の充実や骨折者の歩行支援用器具の活用など、具体的な提案を活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の助成金制度を設けている。資格取得の際は、祝い金や昇給という条件整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で開催される研修に積極的に参加し各自の力量を高めれるようにしている。研修終了後はミーチングにて研修内容を報告している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム協会に加入し他施設との交流会や研修会などでネットワーク作りは出来ている。 ・グループ企業内での交流会や勉強会を開催している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に自宅を訪問し、ご本人要望や困り事を聞いてサービスに反映している。不安な時は見学に来ていただいている。利用開始後は要望について話し合える関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申込の時にご家族より要望等を聞いている。サービス利用開始前に、本人・ご家族より本人の状況や困り事を伺い、サービスないように反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望時や決定の際、ご本人・ご家族・担当ケアマネから意見を聞き必要な支援を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	針仕事・洗濯干し・洗濯たたみ・食事の片付けなど出来る仕事をしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	広報にホームでの様子を記したお手紙を添えてご家族に届けている。変化の有ったときは道に連絡を取り合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・地域開催の祭りや演芸会・郷土芸能発表会を撮影しDVD鑑賞している。 ・遠方に住む家族が帰省したときは、一緒の部屋に泊まることも有る。	地域の伝統芸能の演舞やお祭りの見学、傾聴ボランティアの受け入れなどを通じ、地域との交流を進めているほか、馴染みの美容師による整髪や道の駅へ特産品の買い物に出かけている。知人や親戚の施設訪問のほか、家族との墓参に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的に食事の席替えをし、利用者同士（全員）が関わりを持つ機会を作っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了もご家族より、相談を受けた場合は、相談や助言等必要な支援するように努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、発した言葉や表情等を参考にしている。朝礼やミーティングで気付きを検討。	日々の生活の中で、方言などを活用し、利用者に寄り添い、利用者ごとの心情を大切に、仕草などで意向を把握しながら、季節ごとの衣類の着替え、花祭りの化粧、洗濯たたみなどのお手伝い、誕生日の食事など、きめ細やかなサービスを提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前にご本人・ご家族・担当ケアマネにお会いし、生活環境やサービスの利用状況等を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼で日々の様子を報告し、業務日誌や申し送りノートに記載し全職員が把握するように努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーチングや朝礼で利用者様の状況を確認し必要なケアについても協議している。また、受診の際に医師や看護師から聞いた意見を参考にしている。	職員とのミーティングにより、利用者ごとの状況を把握し、介護計画の原案を作成し、職員の確認の後、医師や看護師の指示・助言を取り入れたもので家族の同意を得ている。 6ヵ月ごとの見直しを基本としながら、短期的目標を3ヵ月ごとに設定した計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や業務日誌に記載し職員間で共有している。ミーティングで話し合い実践に移している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	担当職員を中心に、可能な限り対応するように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域イベントの見学・参加し楽しめるように支援している。また、傾聴ボランティアの来訪やこども園園児の散歩の際に立ち寄ってもらうなど暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と協力・連携しながら、かかりつけ医の診察を受けられるよう支援している（受診時期には家族に連絡を入れている）。 歯科医院より定期検診の案内の受診対応を支援している。	利用者全員、協力医がかかりつけ医となっており、感染症の予防接種も行っている。家族同伴での受診を原則とし、家族の要請があれば職員が同行している。精神科などの専門診療も同様である。歯科は地域で週２日開設される出張診療で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や心身の変化を看護職員に伝え相談し、助言を受けたり適切な受診につなげられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院情報提供書を提出している。入院中に面会しご本人の様子や情報を収集している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の方針について説明している。必要になったら、早い段階で話合う予定。まだ、その場面に遭遇していない。	重度化や終末期の対応については、入居時に説明し、看取り指針も確認している。看取りの実績はなく、重度化した場合は、改めて家族の意向を確認し、かかりつけ医の指示により、対応することとしている。以前、血糖値の低下による意識障害や骨折などで緊急搬送を実施したことがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接している施設にAEDを設置。職員は全員、心肺蘇生講習会受講済。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年２回、火災の避難通報訓練実施。 ・自然災害マニュアルを作成し町や防災センターに提出し避難方法を周知している。職員は手順を理解している。利用開始時に災害時の避難場所について、ご家族に伝えている。	総合、夜間想定の訓練を、消防署立会いのもと、運営推進会議委員の協力（見守り）を得て実施し、別途、職員による通報訓練も行っている。災害情報は町設置の情報端末により把握している。食材、コンロ等も備蓄し、災害時の対応へ万全を期している。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地元の言葉を使い、わかりやすい声かけを心掛けている。プライバシーに配慮したトイレ誘導の声掛け方法が今後の課題。	個人情報は、ファイルで事務所管理とし職員のみの閲覧となっている。広報紙への写真掲載は家族の同意を得ているほか、住民向けの夏祭りのポスターへは、写真等個人情報は掲載していない。トイレ誘導の声掛け方法を検討することとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の言葉に耳を傾け、思いを発信出来るように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理させたり急がせたりしないように心掛けている。特に食事は全員食べ終わるまで、職員も一緒にゆっくりと過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・美容師さんに施設に来ていただき、毛染めやパーマなど受けれるようにしている。 ・担当職員を決めて、季節に合った衣類の入れ替えや内容の確認をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・季節の食材を使い、行事食や郷土食を提供している。 ・菜園で収穫した野菜の下処理や食後の片付けなど協力していただいている。	地域住民や家族からの野菜、山菜、海産物などの差し入れや季節の旬の材料を活用し、季節食や郷土食を提供している。利用者は料理の下準備や後片付けなどを手伝っている。行事での散らし寿司、ドライブでのラーメンなど、利用者の要望を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事ノートを活用しメニューが重複しないように心掛けている。 ・一人ひとりの食べきれる量を盛り付け『完食』出来るようにしている。 ・椎茸・煮干で毎回出汁を取り、具沢山な味噌汁提供を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き実施。毎晩入れ歯洗浄剤を使用し清潔な状態を保っている。必要な方には、仕上げ磨きや舌磨きの声かけ・介助をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方へトイレ誘導を実施。夜間の排泄は、一人ひとりの状況に応じ、トイレの近くに居室を設定したり、ポータブルトイレを使うなどおむつを使わない工夫をしている。	利用者ごとの排泄パターンを把握し、それとなく誘導している。自立を支援し見守り程度とし、必要に応じ介助している。夜間のポータブルトイレ利用やナースコールによる排泄支援を行うほか、リハビリパンツにパットを併用し、快適に過ごせるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を把握し、運動や水分補給で予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一番風呂を希望される方には、可能な限り希望を叶えている。ゆっくり入浴出来るよう1対1で入浴している。	週2回以上の入浴とし、日曜を除く午後の時間に対応している。異性介助にも問題はなく、手のとどかない範囲を支援している。季節ごとに菖蒲湯、ゆず湯を提供している。歌や昔話で楽しんでいる利用者もいる。冬季には脱衣所をヒーターで保温している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床後に寝具を整え、いつでも休息できるようにしている。天気の良い日は布団を干したり、定期的にシーツやタオルケットを洗浄し清潔な寝具で気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の記録にお薬の内容の書かれた用紙と受診の記録をファイルし、職員は確認している。お薬は施設で管理し必要時に手渡し、確実な服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	菜園の指導や針仕事など経験を生かした役割を持てるように努力している。お茶の時間はコーヒーなど選んで飲めるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近所を散歩している。玄関先にベンチを置いていつでも日光浴・気分転換できるようにしている。さくらんぼ狩りや紅葉狩り・外食など出来るよう支援している。	住宅地周辺を散歩するほか、玄関前のベンチで日向ぼっこをしている。近所の畑での野菜の栽培や草取りで出かけるほか、庭では葉ものの栽培もしている。買い物に同行するほか、さくらんぼ狩り、紅葉狩り、浜見学などのドライブをしている。家族と法事にも出かけている利用者もいる。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元に無いと不安な方には少額を管理してもらっている。通帳の管理はご家族や金銭管理の事業を利用している。施設ではお小遣いを預かり、収支をご家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	町内で使える無料TV電話で会話できるようにしている。施設郵便物が届くように届けを出し、届いた手紙はご本人に手渡ししている、一緒に開封し代読等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の掲示物を一緒に作り飾つけている。季節にに合った服装で過ごしていただくため、温めすぎや冷やし過ぎにならない空調の設定を心掛けている。	2階建ての施設で、1階は食事用テーブル、ソファーが配置され、利用者はそれぞれの場所で、塗り絵やテレビ鑑賞などをしている。季節ごとの飾りのほか、手作りの作品、行事の写真が掲示され、鉢物の植木や花に囲まれ、落ち着いた雰囲気となっている。温度はエアコンで管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや玄関先のベンチなど好きな所で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真を飾ったり、位牌やTVを置いたり各自ガ快適に過ごせるように工夫している。枕の位置などご本人の希望に沿ってベットの向きを決めている。	居室は2階にあり、チェストとロッカー、テレビ端子、ナースコールが設置され、ベッド、布団、衣装ケース、化粧品、家族写真、位牌など、利用者の意向に沿って持ち込まれている。温度はエアコンで管理され、柔らかい光の中、くつろげる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能に応じ押し車を使用し自立した移動が可能になるように支援している。		